

【発表テーマ】

ふるさと創生に向けたコミュニティ・スクールと
地域「協育」ネットワークの連携

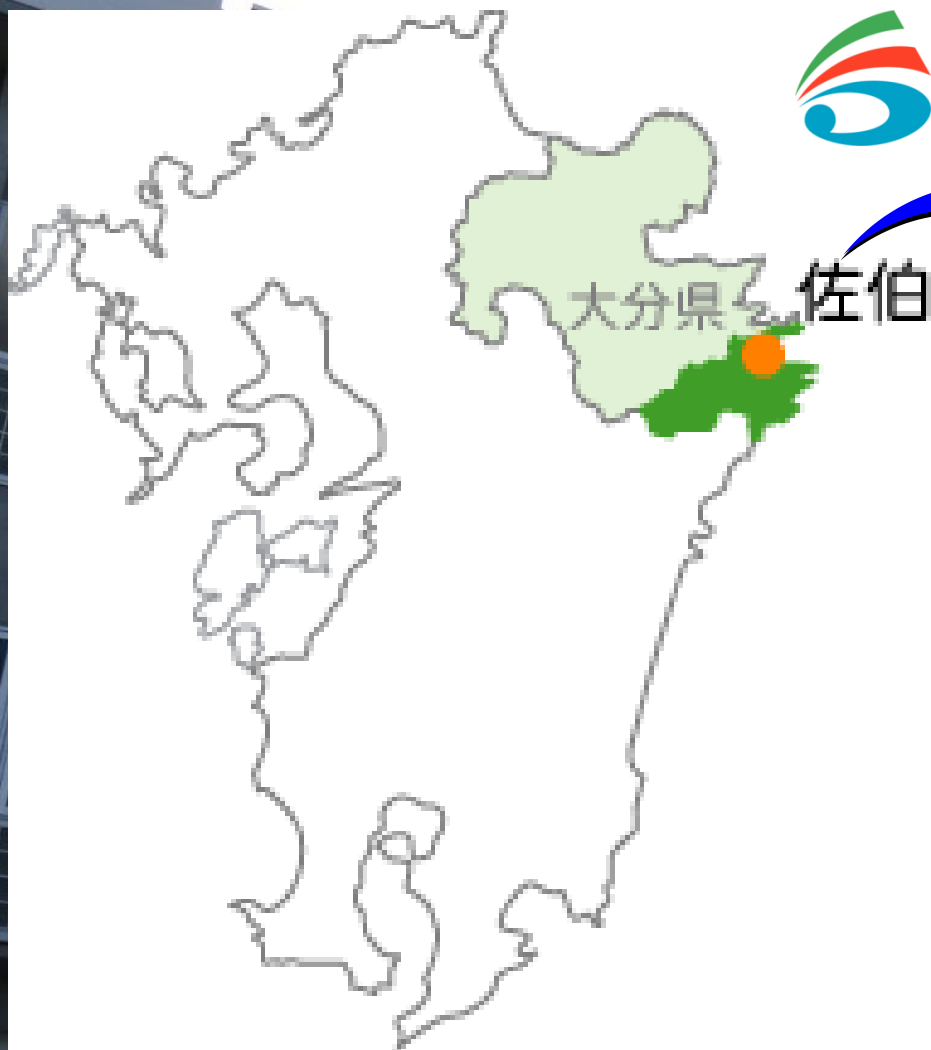


R01. 08. 02 (金) 大分県佐伯市立鶴谷中学校

校長 都留 俊之

地域協育コーディネーター 久寿米木 重生

佐伯市と本校の概要



- ・人口 約7万1千人
- ・九州で一番広い市
- ・東九州道全線開通
- ・延岡市との交流
- ・小19校、中12校

- ・学校は市中心部
- ・人口減少、地域活性化が課題

- ・生徒数507人17学級、500人規模で推移

- ・校区3小学校と小中連携、CSスタート

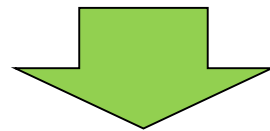
< 発表内容 >

- 1 なぜ、CSなのか
- 2 学校の教育目標
- 3 CSは「誰が、どこに向かって、何を」するのか
- 4 地域「協育」ネットワークづくりでめざしてきたこと
- 5 「協育」ネットとCS、成果と今後の期待



1 なぜ、CSなのか

- (1) “ふるさと創生”の市全体のニーズ
- (2) 中学生(小学生)の地域貢献の地域ニーズ
- (3) “地域のチカラ”を借りたい学校ニーズ
- (4) 校区の小中連携教育の取組・実績



- ・ 本校単独のCS 4年目 (H28～)
- ・ 中学校区のCS 2年目(H30～)

2 R元 学校の教育目標

ふるさと佐伯に学び、未来予想図を描いて
「鶴谷のチカラ」を発揮する生徒の育成

自治 ・ ・ 自分の未来予想図を描き自立

敬愛 ・ ・ 地域の未来予想図を描き貢献

努力 ・ ・ ・ 「鶴谷のチカラ」発揮

ふるさとに学ぶ

地道・徹底

① 知識・技能の確かな習得

② 思考力・判断力・表現力の育成

③ 地域とともに学びに向かう力の涵養



鶴谷中学校区CS（コミュニティ・スクール）2年次の取組

3 CSは「誰が、どこに向かって、何を」するのか

学校の教育目標

実現に向けて3者が
できることは？

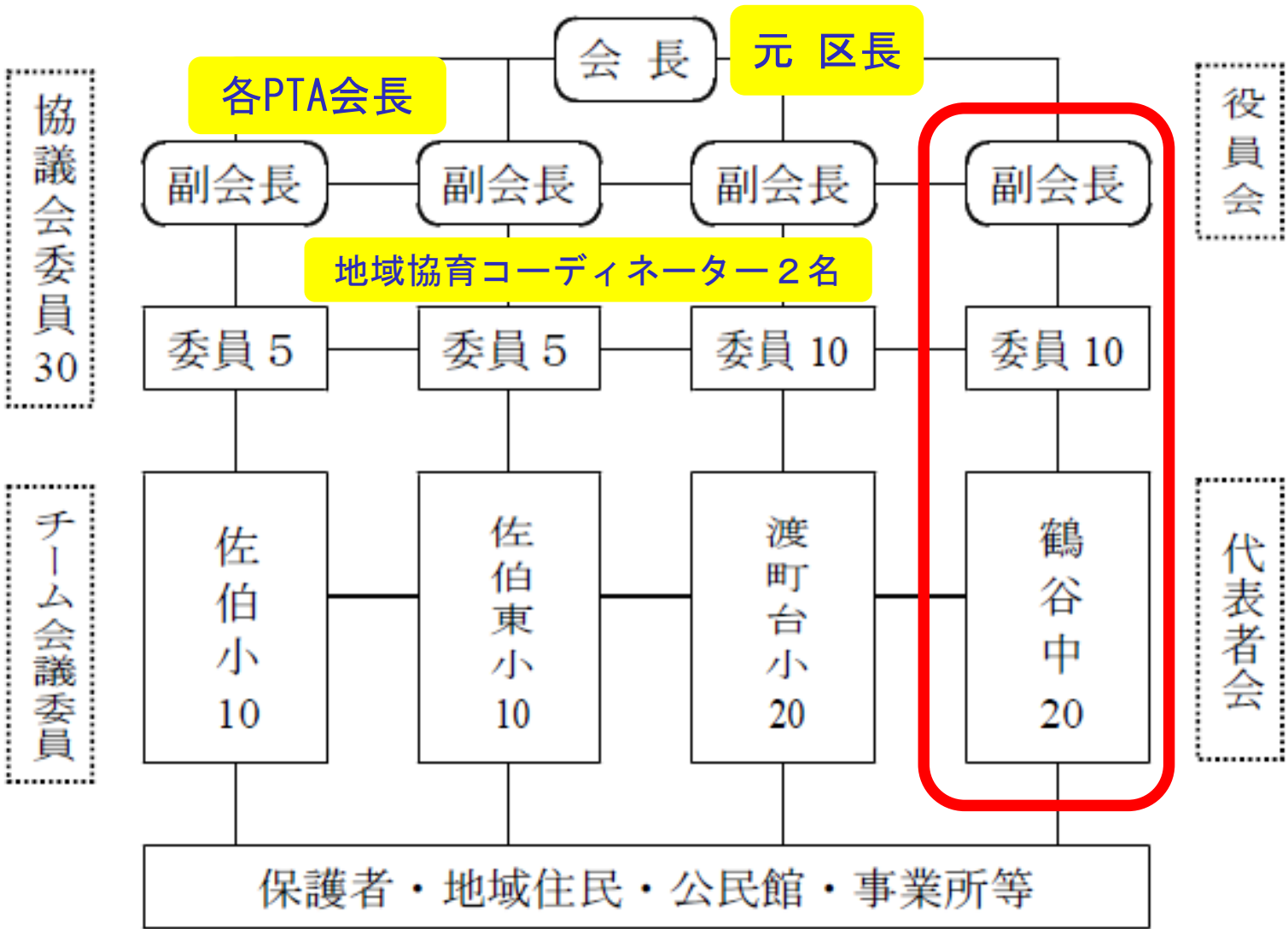


- ①誰がするの？
- ②どこに向かって？
- ③何をやるの？


①

誰が

校区学校運営協議会と学校チーム会議



年間活動計画

	5月	6月	7~8月	12月	2月	3月
各CSチーム会議	第1回 ①委員の委嘱 ②学校方針の承認 ③テーマ設定熟議等		第2回 ①1学期の学校評価 ②活動の進捗熟議 ③2学期の活動案等	第3回 ①2学期の学校評価 ②活動の進捗熟議 ③3学期の活動案等		第4回 ①年度末の学校評価 ②年間の成果等熟議 ③次年度の活動案等
校区CS会議		第1回 ①委員の委嘱 ②各学校方針の説明 ③共通テーマ設定熟議等			第2回 ①共通テーマに沿った各チーム会議報告 ②次年度の課題熟議等	

② どこに向かって

ふるさと佐伯に学び、未来予想図を描いて「鶴谷のチカラ」を発揮する生徒の育成

学校

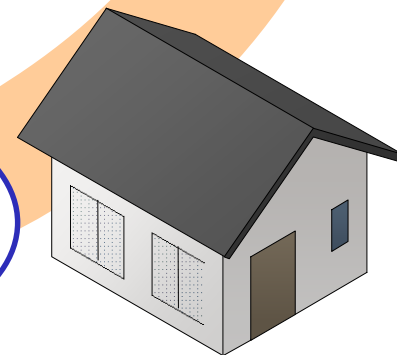
知識・技能の確かな習得

思考力・判断力・表現力の育成

地域とともに学びに向かう力の涵養

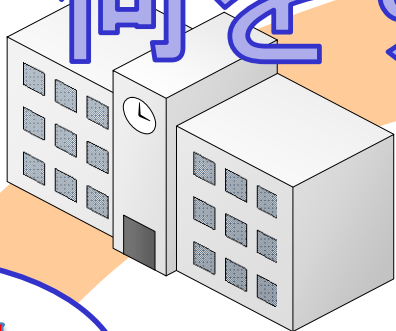
地域

家庭



③

何をするのか



学校

熟議

学校、地域、家庭で何ができるか



学校、地域、家庭に持ち帰る

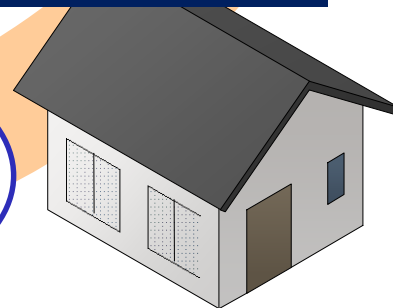


目標実現・具体的な取組

地域



家庭



チーム会議での熟議の様子

令和元年度 第1回CSチーム会議 熟議シート
【 地域・家庭・学校 】 ～今年度重点（テーマ）について～

昨年度末の熟議の結果から、目指す姿（こうなってほしい、こうならない）【グループ】

笑顔が溢れる子ども連人
〈 家庭から地域へ広がるあいの運動 〉

平立て（そのために何をする）

誰が（人数など）	どこで	どのくらい（回数など）
子供 保護者 地域の人 先生	家 通学路（校門以外） 学校	毎週1回（10月～12月） 毎月1回（1月～9月） 毎月1回（1月～9月） 毎月1回（1月～9月） 毎月1回（1月～9月）

和気あいあいと話し合い、元気に発表！

学校と家庭の協働：「夢・かけはしシート」

平成28年度『夢・かけはしシート』①【2学期中間テスト】
 ()年()組()番 氏名()

学校の関係	2学期の目標		【学習面】	
前回の中間の順位より 10%結果を上げる	具体的方策	【生活面】		
具体的な方策	苦手な教科を徹底的に 練習をする	スマホの活用		
具体的な方策	1日の授業の内容の復習を する	保護者印		(印)
ルール	夜10時以降はゲーム禁止			
コメント(書いてもらう曜日、提出)	土曜日にコメント 月曜提出			

学校行事等	学習時間の 記入	学習した教科名	我が家の ルール	自学 コメント
「学習点検表」の趣旨説明・学活で作成	2時間 00分	理科 英語 国語	○	
土曜授業/文化講座	2時間 00分	英語 理科 数学	○	×
市新人大会(陸上)	2時間 00分	数学 社会 国語	○	
新人大会(水泳)	1時間 00分	国語 英語 理科	○	
江ウォーク(3年)	1時間 00分	国語 英語 数学	○	
年生振り替え休日	2時間 00分	国語 理科 社会	○	
校70周年撮影(3, 4限)	2時間 00分	数学 英語	○	
新人剣技柔剣道大会/3年校内横武	1時間 10分	国語	○	
	1時間 00分	英 社	○	
	1時間 00分	英 数	○	

●スマホの使い方などの
我が家のルール」の徹底



生徒の家庭学習習慣と目標管理能力育成

学校と家庭の協働：「災害時引き渡し訓練」



引き渡しカード使い、「その時」に備えよ！

学校と地域の協働：“花のCSロード”づくり



生徒は自尊感情、地域は「学校へ来る用事できた」

学校と地域の協働：文化講座や地域お祭り



学校行事や地域行事へ、地域や学校のチカラを！

学校と地域の協働：地域ニーズを活かした 「総合的な学習」

第28回生活科・総合的な学習全国大会（大分大会）



区長をとおして、世代ごとに市民300人アンケート

学校と地域の協働：地域ニーズを活かした 「総合的な学習」

第28回生活科・総合的な学習全国大会（大分大会）



地域活性化策を「自分ごと」として思考・判断・表現

家庭と地域の協働:「災害時炊き出し食」の おもてなし

第28回生活科・総合的学習全国大会(大分大会)



CS会長・育友会長のリーダーシップでCS収益

キーパーソン 地域協育コーディネーターが橋渡し

Community School

Information Board

ヤングパワーに期待

中学生ボランティア大募集!

とまちっ子まつり
(渡町台小・体育館)
2月16日(土)
9:15~13:00
(集合) (終了)

第14回
三世代ほのぼの作品展
(佐伯東地区公民館)
2月16日(土)~17日(日)
12:00~16:00 9:00~15:00

いつも心強い
まはるさんごとう

＝ボランティアの仕事＝
○受付及び
○軽食(豚汁・おにぎり)
配膳・接待・テブらふき他
のお手伝い

＝ボランティアの仕事＝
チャレンジコーナーの補助
わなげ ちぎてロング つんでカンカン
かさバランス おはしか上手 パスルでGO

※昼食(弁当)・お茶 用意しはす

申し込み用紙⇒担任の先生へ

「とまちっ子まつり」
「ほのぼの作品展」
どちらも
あと 数名
いただけ
うれい
2月14日(休)



「CSルーム」を設置し、定期的に学校
に常駐し、生徒ともふれあい

4 地域「協育」ネットワークづくりでめざしてきたこと

(1) 学習支援、学校環境の整備、地域生活における安全・安心の確保など、学校支援の輪(ネットワーク)

① ゲストティーチャーの指導で生き生き学ぶ子どもたち



② 図書ボランティアの活躍でよみがえった 学校図書館

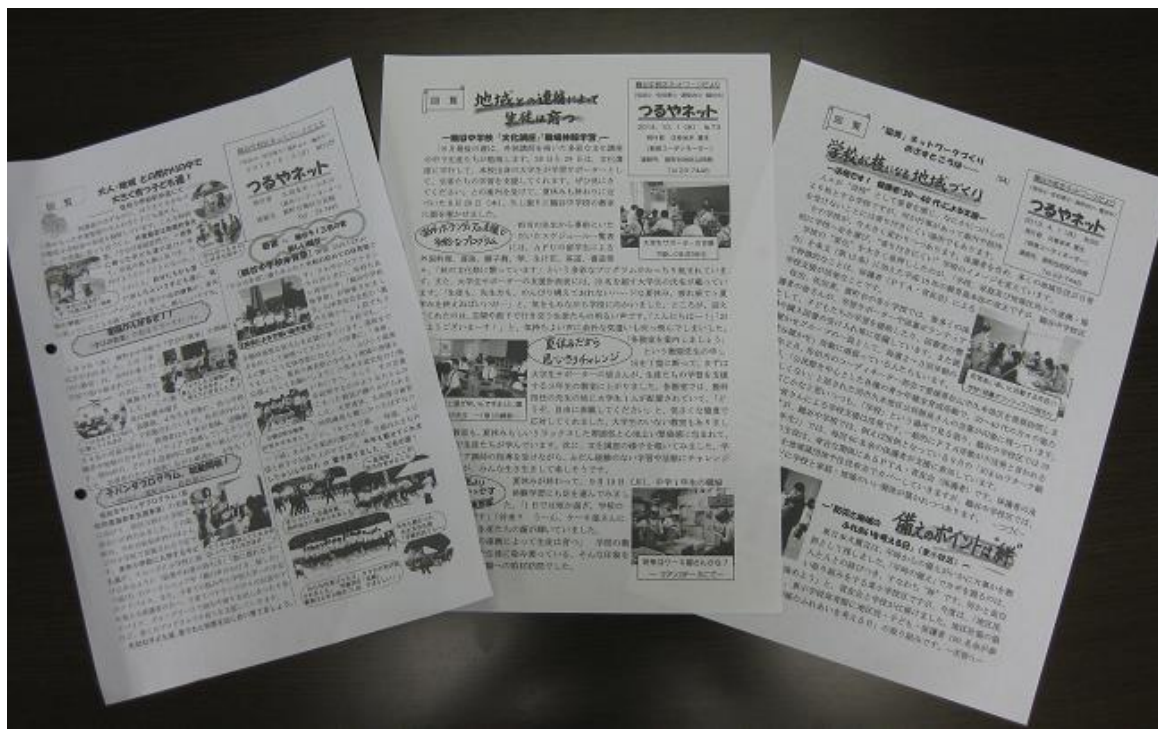


③ 自治委員会メンバーによる安心・安全パトロールや、登下校時の声かけで、影を潜めた不審者(騒動)



(2) 「協育」ネットワークづくりのポイントは、 学校(教職員)・家庭(保護者)・地域住民 の意識改革

- ① 毎月初めに発行するネットワークだより
「つるやネット」で粘り強く啓発



② 学校にとって一番の支援者は保護者 ～大きく変わったPTA・育友会



③ 「学校へ足を運ぶのが楽しくなった」と、
敷居の低くなった学校に感謝する地域
住民



(3) 小学生・中学生による地域行事支援

(ボ

- ① **ランテニア)**で、**新たな段階に入った**学校を飛び出して、**意欲的に地域行事**を支援し始めた中学生



② 子ども観光ガイドとして活躍する小学生



(4) 新たにスタートしたCSの協議の中で、 はっきりしてきたコーディネーター

- (地域) ① 学校が地域に求める学校支援は、これまで
で同様の任務を果たすこと～これまで
- ② 地域の(主催者)が児童・生徒に求める
ボラ
ンティア支援について、学校と地域の
間に
- ③ 学校に求めること～CSの拠点の見える
化
「CSルーム」と「CS掲示板」

5 「協育」 ネット11年の成果と、 「CS」への期待

成果

○ 学校支援の主役を自覚するようになった保護者

○ 学校に期待する地域～学校（小中学生）

の

支援なしに地域行事は成立しない

○ 一番の変容は小中学生～地域の一員として

の

自尊の芽生え、地域貢献に対する高まり

○ 「協育」 ネット11年の歴史が、CS委員として

抵抗感なくスムーズに参加・移行している

今後のCSへの期待

○ 地域イベントに積極的に参加する児童生徒



地域の大人たちを相手に、地域行事をし

める児童生徒へ

6 「CS」の成果と、「協育」ネットへの期待

成果

- CSの認知度向上、教職員の意識改

「CSを取り入れた学校運営できている」

は年間通じて約90%

- 生徒の自尊感情高まり、学習意欲向上

○ 「ふるさとに学ぶ」総合の探究活動と、
CSの
取組は大きな相乗効果

○ 地域協育コーディネーターの存在が、**実施**

主体を明確化し、学校の負担軽減

今後の「協育ネット」への期待

○ **CSと協働し、子どもたちとふれ合う中で、
地域の方々の学び・生きがいを生み、地
域
活性化へ**

● 「CS」と「協育ネット」は、“ふるさと
創生”の



佐伯市立 鶴谷中学校

ご静聴ありがとうございました。